

トライアスロンをメジャースポーツへ

Triathlon to Majorsports

1K05B226

指導教員

主査 葛西順一先生

山岡 由果

副査 村岡功先生

緒言

トライアスロンはオリンピック種目となったがまだまだ歴史の浅い競技であり、マイナースポーツとされている。競技人口だけでなくトライアスロンを専門とする指導者も少ないのが現実である。大学からトライアスロンを始める選手は多いのだが、部活動として登録している大学が数少なく学校外でのクラブチームのコーチによる指導のもと、多くの指導者にアドバイスをもらいながら、また選手同士で情報を交換しあいながら、試行錯誤して多くのトレーニングパターンを試みている選手がほとんどである。

しかし、トライアスロンに関わっている人口が少ないせいか、トレーニングを参考とする対象のものが少なく、いかにパフォーマンスを向上させていくのか多くの選手が苦勞している。また、トライアスロンを仕事として生活している選手にとって資金面で非常に苦勞している。2008 年 4 月には国内最強といわれていた株式会社テイケイのトライアスロンチームが廃部となり、日本国内での実業団は日本食研とトヨタ車体の 2 チームとなった。今よりも高い評価を得なければ、支援してくれる会社数は増加せず大会運営も困難になるであろう。2008 年に行われた北京オリンピックでは女子日本代表の井出樹里選手が 5 位に入賞という快挙を成し遂げたものの、メディアではあまり取り上げられずに終わり、また昨年 2007 年に開催されたワールドカップ・エイラート大会にて男子日本代表で出場した田山寛豪選手が優勝したが、メディアで大きく取り上げられることはなかった。

本稿では、トライアスロンに関する書籍、また世

界でのトライアスロンの現状などを調べるとともに、トライアスリートによるアンケート調査をもとにトライアスロンの魅力は何か、今後いかなる方法をとればトライアスロンの認知度が高まり、そして誰でも気軽にトライアスロンをスタートできる環境を作っていけるのかを調査研究する。

第一章 トライアスロン競技とは

第一章ではトライアスロンを理解するにあたって必要となる競技特性を研究する。本稿では各種目のそれぞれの単一種目（競泳、自転車競技、陸上競技）との違い、レースにおいての条件の違い、トライアスロンの距離の違い等の観点から、トライアスロン独自の特徴を導き出す。

第二章 トライアスロンの歴史

第二章ではなぜトライアスロンが3つの種目を同時に行うことを試みたのか。トライアスロンの原点・歴史を探っていくことにより、よりトライアスロン競技そのものの深さを探る。

第三章 トライアスロンが与える影響

第三章ではトライアスロンが身体にどのような影響を与えるのかを調べる。トライアスロンは競技時間が長いため多くの持続的エネルギーを必要とする。いかにエネルギー不足を来たさないように栄養補給を行っていくか、疲労をいかに残さずに試合当日を迎えるか等を調べることにより、最高のコンディションで試合に望むことをまとめる。

第四章 トライアスロンの現状

第四章では世界と日本のトライアスロンを比較し、日本が世界で勝てない理由等を調べることで、2012年に開催されるロンドン・オリンピックでのメダル獲得へと導く。

第五章 トライアスリートの思い

第五章ではトライアスリートへのアンケートを実施することにより、アスリートの競技をスタートする動機づけをまとめる。始めたきっかけ、以前行っていた競技、北京オリンピックを観戦しての感想や意見、今後のトライアスロンの将来、展望を聞くことによりトライアスロンはどうあるべきかを調べる。

まとめ

今回の研究では、私自身がこの12年間の競技生活で感じてきたトライアスロンにおける世間の認知度の低さに対して、これをいかに高めるかをテーマとして取り組んできた。競技人口が増加し、なおかつメディア進出、そしてトライアスロンのできる環境を整えることが、メジャースポーツへとつながる第一歩であると認識できた。誰でも気軽に参加できるような体制へと作り上げていくことにより、多くの企業にスポンサーとしての支援を行ってもらうことが今後の課題解決へとつながってこよう。本研究が、今後、トライアスロンというスポーツが多くの人に認知され、さらにトライアスロン競技の発展に貢献できれば幸いである。